

第10回IPPC年次総会（CPM-10）の結果概要

日 時： 平成27（2015）年3月16日（月）～3月20日（金）

場 所： F A O本部（ローマ）、参加国数111カ国（締約国数181か国）

出張者： 植物防疫課 横井幸生技官（前IPPC事務局長）ほか

概 要：

1 国際基準（ISPM）の策定

（1）採択された基準案（全てコンセンサスによる採択）

- ① クイズランドミバエに対する低温処理基準3本【CPM-9で中国がF0提出】
- ② コナカイガラムシ科3種の放射線処理基準（今回初めて提案）
- ③ ミバエ管理に関する植物検疫手法（同上）
- ④ 植物検疫用語集の改訂（同上）

（2）不採択となった基準案

- ⑤ ミバエ寄主ステータスの決定【CPM-9でウルグアイがF0提出】
基準委員会（SC）から投票による採択を提案されていたが、米国、ウルグアイが採択に反対したため、採択は見送られ、SCに差し戻された。
- ⑥ 栽植用植物に係る栽培用資材の国際移動（今回初めて提案）
ウルグアイからフォーマル・オブジェクション（F0）が提出され、SCに差し戻された。
- ⑦ 木材の国際移動（今回初めて提案）
NZからF0が提出され、SCに差し戻された。

（3）国際基準の採択プロセス等

① 基準採択プロセス

- ・ 現行策定プロセスでは、過去の年次総会で加盟国からF0が提出された基準案は、SCで再検討後には、F0の機会を与えることなく投票で採択できると規定。しかし今回総会で、日本、中国、インド等多くの国が、ISPMは科学的な議論のもと可能な限りコンセンサスで採択するよう、策定プロセスを見直すべきと主張。
- ・ 各国のコメントを踏まえ、SC（5月）等で基準策定プロセスを見直しについて議論することとなった。

② 基準の枠組み（フレームワーク）

既存の基準と今後策定すべき基準を整理するフレームワークについて、日本から、策定すべき基準の優先順位付け、勧告や技術マニュアル等も

含めた広範な整理を行うべきと指摘。SCで継続検討することとなった。

③ 品目別基準のコンセプト

NZから、品目別の国際基準（木材等）が満たすべき要件や策定プロセス等を明確化すべきと指摘。作業グループを設置し検討することとなった。

2 電子植物検疫証明（ePhyto）

- ・ ePhyto作業グループから、ハブシステムの構築に関する検討状況を報告。規格通商開発機構（STDF）の資金等による試行プロジェクトへの支持を求める発言があった。
- ・ 各国は基本的にePhytoハブを支持しつつも、システムの設計（セキュリティ、秘匿性）、管理方法、コスト負担、国内システムとのリンク等の課題を指摘。今後、理事会においても検討し、次回総会（CPM-11）で報告することを確認した。

3 CPM勧告

（1）海上コンテナに関するCPM勧告

作業グループ（日本を含む）が策定した、海運会社による「貨物輸送ユニット梱包行動規範」（国際海事機関（IMO）等策定）の実施を加盟国が支援することを柱としたCPM勧告案が採択された。

（2）病害虫診断に関するCPM勧告

EUが病害虫同定診断の取組強化を図る勧告案を提案した。次回総会（CPM-11）での採択に向け、加盟国協議を実施することとなった。

（3）CPM勧告策定の規準（クライテリア）

今後CPM勧告を策定するに当たり、策定の可否を判断するための規準（クライテリア）について議論した。拙速な結論を避けるため、次回総会（CPM-11）での採択に向け調整を進めることとなった。

4 管理・運営

（1）事務局強化に係る評価

- ・ FAO評価室から、昨年実施された評価と勧告について報告された。
- ・ 勧告に、IPPC関係会議の縮小（戦略計画グループ（SPG）の廃止等）が含まれていることにつき、各国から強い懸念が示された。
- ・ 今後、加盟国が勧告を十分に検証し、総会としての対応について検討を行い、次回総会に報告されることとなった。

（2）植物衛生国際年（International Year of Plant Health：IYPH）

- ・ 昨年総会で提案された植物衛生国際年について、フィンランドから、植物衛生国際年（2020年）の実現に向けた構想や課題（追加資金等）に

ついて説明された。

- ・ 多くの国・地域がこの構想を支持。運営委員会を設置し、次回総会（CPM-11）に詳細計画を提示することを確認した。

（3）CPM補助機関の委員の選出

原案どおり承認された（アジア地域にSC補欠（植物防疫課 齋国際食料調査官）、SBDS補欠（植物防疫課 鈴木課長補佐））。地域ごとに選出方法をFAO地域代表と調整の上、確立する必要があることを確認した。

5 その他

（1）次回IPPC総会（CPM-11）の日程

次回年次総会は2016（平成28）年4月4－8日に開催。

（2）サイドセッション

ミバエ検疫処理専門家会議（昨年12月沖縄開催）の成果等について報告があり、会議をホストした日本に謝意が示された。

（以上）